

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



**UNITE
FOR
GOOD**
よいことのために手を取りあおう



ガールスカウトとクリーン作戦

2025-26年度 RI会長／フランチエスコ・アレツォ
RI.D2590ガバナー／大塚 正一
横浜旭RC会長／五十嵐 正



第12回 チャリティコンサート



防災先進国イタリアに学ぶ講演会開催

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33／〒241-0836
TEL.080-1215-6668／FAX.045-362-0024
http://yokohamaasahirc.cho88.com
Email:asahirc@titan.ocn.ne.jp
例会場 二俣川駅ジョイナステラス3／4Fコミュニティサロン
例会日 月3回水曜日／12時30分～1時30分

2025年12月10日 第2600回例会 VOL.57 No.17

■司会 SAA 北澤 正浩

■開会点鐘 会長 五十嵐 正

■出席報告

会員数	20名	本日の出席数	12名
本日の出席率	66.67%	修正出席率	73.68%

■本日の欠席者

草柳、中谷、二宮、佐藤（真）、宋、

■オンライン出席 福村

■他クラブ出席者

五十嵐、新川（地区）

■ゲスト

二川 達也様（戦術航空士）

■会長報告

五十嵐 正

皆さん、こんにちは。

本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

皆さん、こんにちは。

本日も例会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

まず、昨日発生した青森県での地震について触れさせていただきます。

被害状況の全容はまだ明らかになっていない部分もありますが、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。また、余震も続く可能性

がありますので、現地の皆さまの安全が確保されることを願っております。

こうした災害の報に接するたびに、私たちが地域で進めている防災の取り組みの重要性を改めて感じます。

さて、その防災に関して、先日、避難所生活学会の水谷先生より年次集会へのお誘いがあり、参加してまいりました。詳しい内容は後日改めてご報告しますが、その中で、横浜市の取り組みについて、横浜市総務局危機管理担当課長・田中さんのお話の一部をご紹介します。

横浜市がこのTKBを導入することになった大きな背景には、今年3月に改定された「横浜の受援・防災戦略」があります。近年、災害の規模や頻度、発生傾向が大きく変化していることから、従来の取り組みだけでは不十分であるという判断のもと、多角的な見直しが行われました。

その見直しの中で重要な柱となったのが「誰もが安心して避難生活を送れる仕組みづくり」であり、その具体策の一つとしてTKBユニットの導入が位置づけられています。

TKBユニットとは、トイレ・キッチン・ベッドを中心に、それらに付随する設備や車両をま

とめたセットのことで、今年度はこれらの資機材の購入と準備が進められているとのことでした。

導入の目的は避難場所での必要設備を確保することであり、特に

(1) 運用上の課題への対応

(2) どこでどのように活用するかを検討

が現在進められている重要なポイントだそうです。

今年度中に資機材の検討と購入が行われ、車両は年度末の納品を予定しています。

また、運用検討については、水谷先生をはじめ大学の先生方も加わり、課題解決に向けて議論が進んでいるところです。検討がまとまり次第、来年度には可能な限り実際の訓練に取り組む方針で、1ユニットで約3,000人に対応できるとのことでした。さらに、備蓄施設としては花博会場跡地の活用が検討されています。

会場では田中さんと名刺交換をさせていただき、テント設営をはじめ建設関係など各分野の専門職の協力が不可欠であるとお話を伺いました。私からは「地域の専門家集団として、ロータリークラブでお手伝いできることがあれば、ぜひお知らせください」とお伝えしてあります。

昨日の地震を受け、災害への備えはまさに“いつ起きてもおかしくない”現実として私たちの前にあります。

地域の安全・安心に少しでも貢献できるよう、クラブとしてもできることを引き続き考えていきたいと思っています。

さて本日は、まさに「安全」「災害時の行動」に通じるご経験をお持ちの卓話者をお迎えしております。

本日の卓話は、戦術航空士として長年現場でご活躍されてきた 二川さん においでいただきました。

航空機の運航や危機管理、安全確保に関して

豊富な知識と実務経験をお持ちであり、その視点は私たちが地域で防災に取り組むうえでも大変示唆に富むものになると思います。

会員の皆さんも、ぜひ多くの気付きや学びを得ていただければと思います。

■幹事報告

関口 大樹

※例会臨時変更のお知らせ

▷神奈川東ロータリークラブ

・1月23日(金) 休会

・1月30日(金) 夜間例会

『神奈川 RC・神奈川東 RC 合同賀詞交歓会』

会場 横浜ベイシェラトンホテル

■ニコニコ BOX

中島 徹／二川達也様今日は、ありがとうございます。卓話よろしくお願い致します。

関澤 信吾／二川様、本日の卓話よろしくお願い致します。

北澤 正浩／二川達也様、本日の卓話を楽しみにしております。

市川 慎二／二川達也様、本日は卓話よろしくお願い致します。

目黒 恵一／二川達也様、卓話よろしくお願い致します。

関口 大樹／二川様、ようこそおいで下さいました。本日は卓話よろしくお願い致します。

安藤 公一／二川様、ようこそお出で頂きありがとうございます。本日の宜しくをお願い致します。

新川 尚／二川様、本日の卓話よろしくお願い致します。

五十嵐 正／戦術航空士二川様、本日はお忙しい中おいで頂きありがとうございました。卓話を楽しみにしております。

■「この国を、この旗を護る」

二川 達也様（戦術航空士）

皆さん、こんにちは。本日は「海を護る海上自衛隊の取り組み」というテーマでお話しさせていただきます。

私は昨年8月まで海上自衛隊で勤務しておりました。退官してから半年ほど“人生の夏休み”をいただき、その後、第二の人生を歩み始め、全国各地を巡り皆さまとお会いする機会をいただいております。今日は、これまで海上自衛隊で経験してきたこと、そして日本の海を守るための取り組みについて、限られた時間ですがお伝えしたいと思います。

◎「情報が人を動かす」という世界

私は海上自衛隊に入隊後、航空職種となりました。航空職域でも哨戒機の戦術航空士、操縦桿を握らず機上で画面を見ながら様々な情報を集約し、幾何学的に潜水艦の位置を局限するというものでした。

この経験を通じて、「兆候がどれほど大切か」を深く理解しました。例えば、数秒の小さな変化から相手の意図を推察する、あるいはちょっとした波の動きから潜水艦の探知に繋げるといった、小さな変化の分析の積み重ねが安全保障の基盤となっているということです。この経験はその後の自衛隊生活にも大きく影響し、常に「兆候から情報を判断する目」を持ち続けることにつながりました。

自衛隊生活では異動が非常に多く、私の場合、最後の11年間は毎年引っ越しをしていました。年に2度の異動もありました。理由は自分でも分かりませんが、さまざまな任務に携わる機会を与えていただきました。最後の勤務地は広島県呉市で、人に支えられながら非常に充実した時間を過ごすことができました。

◎「守る」とは何か ― 安全保障の基本概念

日本の安全保障を考えるうえで最も重要なのは「脅威とどう向き合うか」という点です。脅威とは単に“敵”の存在だけではなく、「どのような能力を持ち、何をしようとしているか」という二つの要素で決まります。つまり脅威は「能力 × 意図」で決まります。たとえ能力が大きくても、意図＝侵攻する気持ちがなければ脅威



にはなりません。しかし、意図が不透明で能力が増している国がある場合、それを見極めることはとても重要となります。

冷戦時代の「相互確証破壊（MAD）」もこの概念に基づいています。攻撃すれば相手も反撃し、両方が破滅するため、攻撃できない。こうした抑止力の均衡が、今も国際秩序の一部を支えています。

また「脅威」を見積もる上で重要なことがあります。

それは変わらないものと変わるものがあるということも頭に入れなければなりません。

では変わらないものは何か？それは「地理」です。日本の隣には中国やロシアといった大国があります。この地理的位置関係は未来においても変わりません。

一方で「能力」は常に変化します。

中国はかつて沿岸から遠くへ出られませんでした。今は南シナ海から太平洋、ハワイ近海まで進出するようになりました。特に中国の航空母艦の発展は顕著で、旧ソ連から入手した「遼寧」から始まり、現在では国産空母2隻を建造し、最新艦「福建」ではアメリカと同じ電磁カタパルトを導入しています。その能力向上を背景に脅威は増しているといっても過言ではありません。

◎混とんとする世界

ロシアによるウクライナ侵攻は、21世紀においても大規模な武力侵攻が起こり得ることを示しました。戦争は3年以上続き、世界は「力による現状変更」が再び現実味を帯びた時代に

入りつつあります。

さらにサイバー空間や宇宙空間など、新しい領域でも見えない衝突が起きています。衛星への妨害やサイバー攻撃は、一般市民の目には見えませんが、日常から国を揺るがす重大なリスクを含んでおり、平和の脆さを痛感させるものです。

◎海上自衛隊が守る「海」と「国民の生命」

今述べたような安全保障環境の中、海上自衛隊は「海」を守り、海上交通の安全を確保することで、私たちの日常生活と経済活動を支えています。そのために大きく3つの取り組みを行っています。

◎有事への対応

平素から即応態勢を維持し、何かあったときにしっかりと我が国を護る、海上自衛隊の一丁目一番地の任務です。

また海上自衛隊だけでは対処困難なこともあります。そのために統合運用、陸、空自衛隊とともに戦うことを念頭に入れるとともに、同盟国、同志国との共同作戦もできるようにしなければなりません。

◎平素からの取り組み

日本周辺海域を365日、24時間体制で監視し、航空機や艦艇の動きを把握します。北海道から南西諸島まで広大な海域を常に見守ることで、異常や兆候をいち早く察知します。北朝鮮による“洋上瀬取り”の監視も含まれます。それとともにアデン湾に護衛艦と哨戒機を派遣し、海賊対処行動も行っています。

海上自衛隊は有事のためだけに存在しているわけではありません。海難救助、災害派遣の対応など、国民の生命を守る活動も日常的に行っています。台風や地震などの災害では、最も早く被災地に接近できるのが艦艇であり、自衛隊の迅速な支援が被害の軽減につながります。また、海上における爆発性危険物の除去も行っています。例えば爆発性危険物の除去ということ

で仮に機雷を処分する場合、実はその機雷の性質によって根拠となる法律が異なります。実力部隊として正しい法律の理解に基づく権限の行使が自衛隊には求められます。

◎望ましい安全保障環境の創出

海は世界につながっています。海上自衛隊は、単に日本を守るだけではなく、「日本に味方を増やす」ことにも力を入れています。

例えば、インド太平洋地域に輸送艦等を派遣し、入港地で医療支援をしたり、護衛艦を派遣して多国間共同訓練を実施すること、そしてそのような機会に音楽隊などによる文化交流も実施したりしています。

これらは「日本という国への信頼」を積み重ねる外交的活動です。日本だけで平和を保てる時代ではありません。価値観を共有する国にいい印象を持ってもらい、協力態勢を強化することは、地域の安定につながる重要な手段なのです。「自由で開かれたインド太平洋」を具現化するために海上自衛隊も一翼を担っています。

◎ おわりに ― 海を守ることは国を守ること

海上自衛隊の役割は、単に“有事のためだけに存在する組織”ではなく、日本の平和と安全、そして国際社会の安定のために日々努力する存在です。

海を守るということは、日本という国の生命線を守ることに他なりません。日本の貿易の99.6%は海上輸送であり、海の安全なくして日本の繁栄はありません。

海上自衛隊は、海の安全確保、同盟国との協力、そして国際社会との連携という三本柱を軸に、これからも日本の平和を支えるために活動が続けていきます。

本日は限られた時間でしたが、海上自衛隊の取り組みについて、少しでも理解を深めていただけたら幸いです。ありがとうございました。

■ 1/7 賀詞交歓会 職業奉仕フォーラム